

### 6K フルサイズセンサーを搭載したデジタルシネマカメラ“EOS C80”を発売 小型・軽量デザインとインターフェース拡充を両立し多様な撮影スタイルに対応

キヤノンは、映像制作機器 CINEMA EOS SYSTEM の新製品として、小型・軽量の筐体<sup>※1</sup>による高い機動性を実現しながら、6Kフルサイズセンサーと充実したインターフェースを搭載した“EOS C80”を2024年11月上旬に発売します。



EOS C80  
\*「CN-R85mm T1.3 L F」装着時



ジンバルを使った撮影にも対応

“EOS C80”は、「EOS C70」（2020年11月発売）の高い機動性と操作性を継承するとともに、「EOS C400」（2024年9月20日発売予定）と同じ6Kフルサイズセンサーの採用により、被写界深度が浅く、美しいボケ味で印象的かつ高品質な映像表現を可能にしたRFマウント搭載のデジタルシネマカメラです。映像制作現場で広く使われているSDI端子をはじめ、インターフェースを拡充することで映画・ドラマから報道・中継などのライブ映像まで幅広い映像コンテンツの制作をサポートします。また、バーチャルプロダクション向けに開発したメタデータにも対応しています。

#### ■ 6Kフルサイズセンサー搭載で印象的な映像表現を実現

6Kフルサイズ裏面照射積層CMOSセンサーと映像エンジン「DIGIC DV 7」との連携により、ローリングシャッター歪みを抑制した動画撮影や、6K/30P内部RAW記録、6Kオーバーサンプリングによる高画質な4K動画撮影<sup>※2</sup>を実現しています。また、撮影シーンの明るさに合わせて3段階のBase ISO（基準感度）を切り替えることで、夜間や室内などの暗いシーンでもノイズを抑えた撮影ができるほか、最大4K/120P<sup>※3</sup>、2K/180P記録に対応し印象的なスローモーション映像が撮影可能です。

#### ■ 幅広い撮影現場に対応するインターフェースを搭載

小型・軽量の筐体による機動力を維持しながら、SDI端子を搭載し、HDMI端子との外部機器への同時出力を実現しています。また、本体内蔵のWi-Fiやイーサネット端子によって、IPストリーミングによる映像データの転送や、複数台のカメラを一括操作するリモートコントロールなどのワークフローにも対応し、ライブ映像制作をはじめ、幅広い撮影スタイルに対応します。さらに、新デザインのハンドルユニットと同時装着も可能なマルチアクセサリシュー端子を搭載し、カメラ本体からさまざまなアクセサリへの高速通信・電源供給が可能です。

#### ■ 運用性と操作性を向上し高品質な映像制作をサポート

キヤノン独自AFシステムの「デュアルピクセルCMOS AF II」とディープラーニングを活用したアルゴリズム「EOS iTR AF X」の搭載により、追従性に優れた高速・高精度・広範囲なAF操作や高性能な被写体検出ができるため、ワンオペレーション撮影でもフォーカス操作を気にせず構図やズーム操作などカメラワークに集中して撮影ができます。また、LCDパネルの高輝度化により、屋外撮影時での視認性が向上しています。さらに、グリップを握った際の親指位置にジョイスティックを配置し、指にかかりやすい形状にすることで、素早く正確なメニュー操作や設定変更を実現しています。

※1. 本体外形寸法約160（幅）×116（奥行）×138（高さ）mm、本体質量約1,300g。

※2. XF-AVC/XF-HEVC S/XF-AVC S 記録時、センサーモードをフルサイズ、フレームレートを60P/50P以下選択時。

※3. Super 35mmモードで4K・2K/120P、4K・2K/100P選択時は画角が約6%クロップします。

製品名	希望小売価格	発売日
EOS C80	オープン価格	2024 年 11 月上旬

- 
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様センター 0570-07-0032 (直通)
  - CINEMA EOS SYSTEM ホームページ : [canon.jp/cinema-eos/](https://canon.jp/cinema-eos/)

## 〈主な特長〉

### 1) 6K フルサイズセンサー搭載で印象的な映像表現を実現

- 6K フルサイズ裏面照射積層 CMOS センサーを搭載。フルサイズならではの浅い被写界深度と大きなボケ味を活かした印象的な映像表現と、信号読み出しの高速化によるローリングシャッター歪みを抑制した動画撮影が可能。また、同じセンサーを搭載している「EOS C400」のサブ機として、機動力が求められる場面や狭い空間などで活用が可能。
- 映像エンジン「DIGIC DV7」との連携による高速処理で 6K/30P 内部 RAW 記録や 6K オーバーサンプリングによる 4K 高画質記録を実現。
- 最大 4K/120P、2K/180P 記録に対応。2K・4K/120P までのハイフレームレート記録時に「デュアルピクセル CMOS AF II」に対応し、印象的なスローモーション映像を制作する場合にフォーカスのずれによる映像の乱れを軽減。
- Base ISO「自動切り換え」に加え、低感度から高感度まで 3 段階（ISO800、ISO3200、ISO12800）の Base ISO をマニュアルで変更可能。撮影シーンの明るさに応じて Base ISO を使い分けることで、ノイズを抑えた撮影が可能。

### 2) 幅広い撮影現場に対応するインターフェースを搭載

- 本体外形寸法約 160（幅）×116（奥行）×138（高さ）mm、本体質量約 1,300g と、小型・軽量の筐体を実現。手持ちの撮影やジンバルを使った撮影など、機動性を生かした撮影が可能。
- 新たに SDI 端子を搭載。HDMI 端子と同時出力が可能。外部機器との柔軟な接続に対応。
- SRT プロトコルに対応。内蔵 Wi-Fi やイーサネット端子を通じて、撮影と同時進行でリアルタイムに動画を送信する IP ストリーミングが可能。放送局などの既存の映像制作・編集フローの中でニュース番組や動画サイトでのライブ配信を実現。配信中のカード記録も可能。
- スマホやパソコンやリモートカメラコントローラーからのリモートコントロールも可能。ライブ映像制作をはじめ、幅広い撮影スタイルに対応。
- マルチアクセサリシュー端子を搭載。カメラ本体からアクセサリへの高速通信や電源供給を実現。新デザインのハンドルユニットとの同時装着も可能。



機動性を生かした手持ちの撮影も可能



### 3) 運用性と操作性を向上し高品質な映像制作をサポート

- 「デュアルピクセル CMOS AF II」を搭載し、追従性に優れた高速・高精度・広範囲の AF を実現。ワンオペレーション撮影やジンバルを使用した撮影においても、カメラワークに集中でき、運用性を向上。また、ディープラーニングを活用したアルゴリズム「EOS iTR AF X」により、人物の胴体※と動物（犬、猫）の検出に対応。
- AF 中にレンズのフォーカスリングを操作することで、一時的にマニュアルフォーカスへの切り替えが可能。人物から人物だけでなく、建物・花から人物などの被写体変更において、ユーザーが意図したスピードでのフォーカス制御で被写体の変更が可能。レンズのフォーカスリング操作が終了すると、ピントを合わせた被写体にフォーカスを維持して追尾を再開する機能を追加。メニュー設定の「検出する被写体（人物／動物優先／なし）」と「瞳検出」を併用して選択可能。
- LCD パネルを高輝度化。屋外撮影時での視認性を向上。
- グリップを握った際の親指の位置にジョイスティックを配置し、スティックを指にかかりやすい形状にすることで、素早いメニュー操作や設定変更を実現。
- 「EOS C400」で搭載した MP4 ファイル形式のビデオフォーマット「XF-HEVC S／XF-AVC S」を採用。既存のビデオフォーマットである「XF-HEVC／XF-AVC」からメタデータを踏襲。さらに、ファイル名の管理がしやすいファイル名称体系を新たに採用。カメラインデックスやリール番号を独立して管理することで、カメラを多数使用する大規模撮影現場にも対応。また、「Cinema RAW Light／XF-AVC」と同一なフレーム毎メタデータを付加することで、撮影データ運用の利便性を向上。

※人物を AF 追尾中に瞳や顔、頭部が隠れた時に、胴体を検出して追尾を継続します。

### 4) RF マウント採用で豊かな映像表現を支援

- RF マウントの通信プロトコルに対応し、倍率色収差補正・周辺光量補正・デュアルピクセルフォーカスガイド・歪曲収差補正をカメラ側で可能。また、カメラとレンズ双方の IS（キヤノン独自の手ブレ補正機能）を RF マウント通信で協調制御することで、強力な手ブレ補正効果を実現。
- 豊富なラインアップから撮影シーンや映像表現に応じて、レンズの選択が可能。別売りのマウントアダプターを装着することで EF レンズ資産の活用ができるほか、「マウントアダプター PL-RF」（2024 年 11 月上旬発売予定）を使用することで、PL レンズの装着が可能。
- バーチャルプロダクション向けに、「CV メタデータ」を独自開発。RF マウントシステムの高速度通信により、レンズとカメラの撮影情報をリアルタイムに通信・演算することができ、出力情報に応じた「CV メタデータ」をイーサネットケーブル 1 本で出力可能。レンズとカメラが連携することにより、事前のレンズ毎のキャリブレーションも不要なため、撮影の準備を削減可能。映像および、レンズのズーム操作に同期した連続的かつ高精度な歪曲データを取得可能で、実写と仮想空間上の撮影範囲を合わせた自然な CG 合成映像の制作を実現。「CV メタデータ」は収録もされるためポスト VFX においても簡便に利用可能。

#### 〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/business/solution/pro-img-sys/cinema-eos/lineup/ces-camera/c80>

## 〈ご参考〉

### 1) CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメララインアップ

キヤノンは、6K フルサイズセンサーを搭載し、インターフェースを拡充した“EOS C80”を投入することで、CINEMA EOS SYSTEM のデジタルシネマカメララインアップを強化します。機動力が求められる報道・ライブ映像制作から、より高品位な映像が求められる映画やドラマまで、幅広い撮影シーンやニーズに対応し、映像文化の発展に貢献していきます。

製品名	マウント		
	EF	PL	RF
EOS C500 Mark II (2019年12月発売)	○	○※1	
EOS C300 Mark III (2020年6月発売)	○	○※1	
EOS C70 (2020年11月発売)	○※2		○
EOS R5 C (2022年3月発売)	○※2		○
EOS C400 (2024年9月20日発売予定)	○※2	○※2	○
EOS C80 (2024年11月上旬発売予定)	○※2	○※2	○

※1. 別売りのマウントキットが必要です。

※2. 別売りのマウントアダプターが必要です。

### 2) 「IBC2024」への出展

2024年9月13日（金）から16日（月）まで、オランダ・アムステルダムで開催される国際放送機器展「IBC2024」のキヤノンブースにおいて、本製品を展示する予定です。

### 3) 映像制作機器の市場動向

高品位な映像が求められる映像制作機器では、4Kをはじめとしたシネマカメラセンサーの高解像度化が進んでいます。また、制作環境は常に変化しており、新しい映像表現に向けてユーザーの撮影スタイルは多様化しています。そのため、高画質な映像が撮影できることに加え、小型で取り回しの良い高い操作性を兼ね備えたカメラへのニーズが高まっています。  
(キヤノン調べ)